

レジメンcode:	C54-06
適応がん種:	子宮体癌
レジメン名:	Pembrolizumab(3週間)+Lenvatinib
間隔:	3週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	キイトルーダ	200	mg/body	点滴(30分)	d1
	レンビマ	[*1]20	mg/body	内服(1日1回)	連日

day1

- 1) 生食 50ml 1本
ルート確保
- 2) キイトルーダ 200 mg/body
生食 50ml 1本
主管① 点滴 30分 インラインフィルター必須
- 3) 生食 50ml 1本
フラッシュ用
- 〈所要時間 約1時間〉

連日

- 1) レンビマ [*1]20 mg/日
内服 1日1回

【*1】1日1回20mgを経口投与する。副作用が現れた場合は症状、重症度等に応じて以下の基準を考慮して、本剤を減量、休薬又は中止すること。減量して投与を継続する場合には、1日1回14mg、10mg、8mg、4mgに減量すること。

【減量、休薬及び中止基準】

副作用	程度*	処置			
高血圧	収縮期血圧140mmHg以上又は拡張期血圧90mmHg以上のとき	本剤の投与を継続し、降圧剤の投与を行う。	上記以外の副作用	忍容性がないGrade 2又はGrade 3の副作用が発現した場合	本剤の投与開始前の状態又は忍容性のあるGrade 2以下に回復するまで休薬する(悪心・嘔吐・下痢・甲状腺機能低下に対しては休薬又は減量の前に適切な処置を行い、コントロールできない場合に本剤を休薬又は減量すること)。 本剤の投与を再開する場合、1段階減量する。
	降圧治療にも係らず、収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上のとき	収縮期血圧150mmHg以下及び拡張期血圧95mmHg以下になるまで本剤を休薬し、降圧剤による治療を行う。 本剤の投与を再開する場合、1段階減量する。			
	Grade 4の副作用が発現した場合	本剤の投与を中止する。		Grade 4の副作用が発現した場合(生命を脅かさない臨床検査値異常の場合は、Grade 3の副作用と同じ処置とする)	本剤の投与を中止する。

次ページあり

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験(KEYNOTE-775/E7080-309)NEJM2022;386:437-48(PMID:35045221)

*適応:がん化学療法後に増悪した切除不能な進行・再発の子宮体癌

【キイトルーダ】

*甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。

◎検査セット登録あり:場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫チェックポイント初回)(免疫チェックポイント2回目～)

*インラインフィルター(0.2～5 μ m)を使用する。

*調製時、又は希釈後に振盪により微粒子が生成される可能性があるため、バイアルは振盪せず、激しく攪拌しない。

*希釈後の最終濃度1～10mg/mlとする。

*生食又は5%ブドウ糖に溶解する。同一点滴ラインを使用して他の薬剤を併用同時投与しない。

*希釈後、25℃以下で6時間以内または2～8℃で合計96時間以内に使用する。

*有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、胃腸、腎、神経関連など)対処アルゴリズムを参照する。

*臨床試験での検査スケジュール、投与延期または休薬基準を参照する。